

# [ 横浜美術館 ]

## 平成 21 年度業務報告及び収支決算

[横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント共同事業体]

### 1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい 3 丁目 4 番 1 号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階一部3階建
敷地・延べ床面積	延床 26,829.4 m <sup>2</sup>
開館日	平成元年 11 月 3 日

### 2 指定管理者

共同事業体名	横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント共同事業体
代表構成団体	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市西区みなとみらい 3 丁目 4 番 1 号
代表者	理事長 澄川 喜一
設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	平成 20 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日

### 3 平成 21 年度総括

平成 21 年は、開館 20 周年、横浜開港 150 周年という節目の年にあたりました。開館から 20 年の活動の軌跡と成果をふまえつつ、開港から 150 年を経た横浜の歴史の意味を再検討して未来につないでいく活動や運営が、今年度の方針の根幹にあったと言えます。

そうした方針を念頭に、展覧会事業、アトリエ事業、創造活動支援事業を組み立て、前途有望な若手アーティストを積極的に紹介し支援する先見性、東西の近代美術や芸術家を新たな視点・切り口で検証し、その意義を発信する専門性、創作の楽しみを広く市民に体験していただく創造性、自発的な創作の喜びを体感することによって、子どもの感受性を育んでいく未来性を達成しました。

前年度から重点的に取り組んでいるファンドレイズ事業は、子どものアトリエ事業との連携にも拡大しており、着実に実績を重ねました。

管理・運営については、共同事業体のメリットを活かし、安全・安心・親切な施設管理を行いました。

## 4 業務報告

事業計画における取組の項目・方針	事業報告(取組内容)
<b>■ 自主事業 ■</b>	
(1) 学芸業務事業	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術館の最も基本的な機能である作品収集、保存管理、調査研究、展覧会企画の各業務を行います。「観る」「創る」「学ぶ」という美術館の全活動の基盤である収蔵美術品の収集・保存・研究及び企画調査を確実にを行い、市民に「新しい価値の発見」をもたらし、横浜の魅力を国内外に発信します。</li> <li>・ 収蔵美術品の日常管理を確実にを行います。</li> <li>・ 他の美術機関・大学などと連携し、ネットワークの強化を図ります。</li> <li>・ 収蔵品の基礎解説シートを作成し、コレクション展等でその成果物を活用します。</li> </ul> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 収集候補案の市への提案 年 1 回</li> <li>● 横浜美術館研究紀要の発行 年 1 回</li> <li>● 博物館実習受入 年 1 回</li> <li>● 他美術館、施設との共同企画 年 4 回</li> <li>● 収蔵品の基礎解説シートの作成 年 50 件</li> </ul>	<p>4 つの企画展、3 期のコレクション展の実施、研究紀要の発行、収集審査委員会への提案、所蔵作品の他館への貸出、棚卸しの実施など、美術館の基本的な活動・機能である美術品の収集、保存管理、研究および企画調査を確実にを行い、達成指標に掲げた項目を概ね達成できました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 収集候補案の市への提案 美術品及び資料収集内部検討委員会の開催に向けて、候補作品のデータシート等の資料を作成し、収集候補案を市に提案しました。</li> <li>● 横浜美術館研究紀要の発行 論文 2 本を掲載する『横浜美術館研究紀要』を、発行しました。発行日:3 月 31 日</li> <li>● 収蔵美術品の日常管理 収蔵美術品の出入庫を記録し管理しました。年末から年度末にかけて、収蔵美術品の棚卸しを実施し、庫内の徹底清掃を実施しました。</li> <li>● 博物館実習受入 7 月 21 日から 28 日まで美術館研修を実施し、32 名を受け入れました。</li> <li>● 他美術館、施設との共同企画 横浜市民ギャラリー、横浜市民ギャラリーあざみ野と連携し、「ヨコハマ・フォト・トライアングル」を 9 月 19 日から 11 月 23 日まで開催しました。城西国際大学メディア学部と連携し、各企画展紹介の HP、映像ツールを作成し、美術館の現場で学生が学ぶ機会を提供しました。</li> <li>● 収蔵品の基礎解説シートの作成 コレクション展第 1 期、第 2 期において、新たな基礎解説シートを作成しました。作成件数:60 件 収蔵品およびコレクション展に馴染んでいただくツールとして、『ヨココレ通信』を発行し、コレクション展の展示室内に設置しました。</li> </ul>

(2) 展覧会事業	
① 企画展	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ より広く多角的なアプローチと外部との連携により、オリジナルでクリエイティブな4本の企画展を開催し、美術を通して「横浜ならではの」魅力を発信します。企画展の実施にあたっては、展覧会企画運営会議(グループ長、経営管理、営業情報、学芸チームリーダー、企画展担当チーフにより構成)に諮り、HEART TO ART との事業連携をはかります。</li> <li>・ 小中高校の美術鑑賞教育に、当該学校の美術教諭に企画展の見どころやねらいを説明するレクチャーを行います。</li> </ul> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 4つの企画展で来館者 241,000 人を目指します。(金氏徹平展:15,000 人、フランス絵画の 19 世紀展:150,000 人、大・開港展—徳川将軍家と幕末明治の美術:50,000 人、東芋展—断面の世代—:26,000 人)</li> <li>● 企画展観覧券の前売りは2ヶ月前から開始します。</li> <li>● 展覧会関連事業を周辺地域へ展開します。年2回</li> <li>● 展覧会企画運営会議を開催します。年4回</li> </ul>	<p>注目される若手現代作家の個展に取り組む一方で、日本の幕末から明治の美術の展覧会、さらにフランス近代のアカデミズム絵画を中心に紹介する展覧会を実施し、現代美術と東西の近代美術をバランスよく紹介しました。</p> <p>企画展の年間目標入場者数 241,000 人に 38,108 人届かず、共催団体の選定、展示企画及び広報戦略に課題を残しましたが、斬新な企画や時宜を得た企画は「横浜」の評価をユニークなものとして高めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 4つの企画展の延べ来館者数は、202,892 人でした。</li> <li>① 金氏徹平:溶け出す都市、空白の森 3月20日～5月27日(60日間) 入場者数 16,189 人</li> <li>② 「横浜開港 150 周年記念/開館 20 周年記念 フランス絵画の 19 世紀 美をめぐる 100 年のドラマ アングル・ドラクロワ・マネ・ルノワール…」 6月12日～8月31日(71日間) 入場者数 115,967 人</li> <li>③ 横浜開港 150 周年記念/開館 20 周年記念 大・開港展—徳川将軍家と幕末明治の美術 9月19日～11月23日(57日間) 入場者数 35,015 人</li> <li>④ 開館 20 周年記念 東芋 断面の世代 12月11日～3月3日(69日間) 入場者数 35,721 人</li> <li>● 企画展観覧券の前売りは2ヶ月前から開始しました。</li> <li>● フランス絵画の 19 世紀展、大・開港展—徳川将軍家と幕末明治の美術で、ランドマークプラザ、クイーンズイースト、ロイヤルパークホテル、虎屋などと連携事業に取り組みました。</li> <li>● 2012 年度までの企画展案を学芸員に募り、外部企画オフィサーとあわせて、企画展検討会議に諮りました。</li> <li>● 企画展ごとに顧客サービス員を中心としたスタッフに、展覧会の内容などを共有する場を確保しました。</li> </ul>
② コレクション展	
<p>横浜美術館の収蔵美術品を紹介するため、3 期に分けてコレクション展を開催します。その中で、横浜美術館の代表的作品を通年展示するコーナーを設け、繰り返しの鑑賞を可能にし、作品と市民との親密度を高め、また遠方からの来館者の期待に応えます。</p> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画展と連動したコレクション展を開催します。 年2回</li> <li>● コレクション・トークを開催します。年10回</li> </ul>	<p>当館の収蔵美術品のうち、人気の高いシュルレアリスム作品を含む西洋画や彫刻作品の代表作の一部を通年展示するとともに、新たに展示のねらいを簡便にまとめた『ヨココレ通信』を展示室内に設置し、市民が所蔵美術品に親近感を持てるよう工夫しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画展と連動したコレクション展を開催しました。</li> <li>① 「フランス絵画の 19 世紀 美をめぐる 100 年のドラマアングル・ドラクロワ・マネ・ルノワール…」連動したテーマ:近代フランス絵画</li> <li>② 「大・開港展—徳川将軍家と幕末明治の美術」連動したテーマ</li> </ul>

	<p>マ:近代日本の残像―幕末明治から大正へ</p> <p>③ 「東芋 断面の世代」連動したテーマ:都市へのまなざし: 須田一政、石内都、金村修、米田知子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コレクション・トークを横浜美術館塾で行いました。 横浜美術館学芸員 11 人のリレー講座「横浜美術館のコレクションでたどる美術の流れ」 全 11 回</li> </ul>
--	--

<p>(3) 教育事業</p>	
<p>① 学校教育との連携</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学芸チーム、教育チームの連携によりコレクション作品を中心とした教育普及に積極的に取り組みます。また学校との《鑑賞教育》に関しての連携を具体化します。</li> <li>・ 中学校美術教師による「ティーチャーズサポーター(仮称)」を発足、夏休み中の子どもたちの鑑賞を教師との連携でサポートします。</li> <li>・ 美術館塾「博物館研修」と連動し、受講生の鑑賞教育研修を「子どもフェスタ」において実施します。</li> </ul> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● アートティーチャーズデーを企画展ごとに年 4 回開催します。</li> <li>● ティーチャーズサポーターの目標 5 人</li> <li>● 夏休み子どもフェスタを開催、より良い鑑賞機会を提供。</li> <li>● 企業協賛の獲得を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「夏休み子どもフェスタ 2009」の開催 会期:8/7～8/26 参加者 2,166 名 新たな試みである「アートティーチャーズ・サポーター」6 名と協働し、小・中学生を対象にコレクション鑑賞の導きを行いました。また、美術館塾「博物館研修」の鑑賞教育実習もかねており、32 人の実習生の指導も行いました。同事業でのアートティーチャーズ・サポーターは次年度、「横浜市中学校美術研究会」の取り組みとしても継続することとなり、新たな展開を見込みます。</li> <li>● アートティーチャーズデー 4 回開催、参加者 計 33 人 教師を通して子どもたちに展覧会を周知する一助となりました。アートティーチャーズデーに参加した教師が、夏休みにティーチャーズサポーターとして指導、教育にあたるなど、学校連携に発展しました。</li> <li>● 子どものアトリエ活動に 4 社の企業協賛を獲得し、関連ワークショップを実施しました。</li> </ul>
<p>② 横浜美術館塾の開講</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収蔵作品や展覧会をさらに活用し、市民が多様なアートシーンに出会うことができる講座をおこないます。</li> <li>・ 市民の多様な好奇心に応え、「アートを鑑賞する」「アートを収集・購入する」「アートを実践する」など、美術への興味を拓けることができる講座をおこないます。</li> <li>・ 市民の交流や生涯学習を支援します。</li> </ul> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● すべての学芸員が講座を担当し、美術普及を実践します。</li> <li>● 様々な市民ニーズに応える講座を開発し提供します。</li> <li>● 「アートに親しむ」ことを目的とした教養講座と、「アートを考える」ことを目的とした専門講座を継続します。</li> <li>● 展覧会と連携し、その展覧会の企画制作の背景までを知ってもらい、展覧会鑑賞がさらに楽しくなる講座をつくります。</li> <li>● アートマーケットへの関心を高める市民をサポートするために、コレクター入門の講座を新設します。</li> <li>● 展覧会の企画制作への関心が高い市民に応え、少人数制の学芸員体験講座を新設します。美術館運営と学芸業務、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全 9 講座を行い 256 人が参加しました。</li> <li>● 全ての講座で実施した満足度調査の結果、高水準の受講料に相応しい充実した内容が高く評価されました。</li> <li>● 一方で時間不足により、市民のアトリエや美術情報センターとの連携講座を実現するには至りませんでした。</li> <li>● 全ての学芸員にとって、横浜美術館のコレクションを紹介する美術普及の実践・訓練をおこなう機会となりました。</li> <li>● 所蔵作品と展示室を使って美術と美術館に関わるさまざまなテーマで講座を行い、塾の主旨であった「美術館ならではの本物と臨場感」でアートを学ぶことの素晴らしさを市民に味わってもらうことができました。</li> </ul>

<p>技術を学び、収蔵作品を使った小規模な非公開の展覧会を企画制作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民のアトリエと連携し、創作・実技を含む講座を新設します。</li> <li>● 本講座と連携し、塾の広報と美術普及を目的とした公開講座(オープンスクール)を開催します。</li> <li>● 美術図書室を活用する講座を新設し、市民の交流や生涯学習の場をつくります。</li> </ul>	
---	--

③ インターンの受入れ

<p>人材育成事業として、現場経験の提供および活動の理論と実践を教授します。従来の学生インターンの他に造形、鑑賞それぞれに特化したインターンを募集します。</p> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受け入れ目標 年6名</li> <li>● 学生インターン 2名</li> <li>● 造形活動インターン 2名</li> <li>● 鑑賞活動インターン 2名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会人の応募もありましたが、結果的に学生のみでの採用となり、かつ活動可能な日や期間の限定で、当初予定していたテーマに特化した受入れが困難でした。</li> <li>● 子どものアトリエで、通年の学生インターン 3名、短期の学生インターンを12名、計15名を受入れました。</li> </ul>
--	---

④ ボランティアの活用

<p>市民協働事業として、市民ボランティアをホームページや館内での案内で募集し、市民が事業を支援する協力体制を構築します。</p> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 展覧会、アトリエ事業、アーティスト・イン・ミュージアム事業、美術情報センター運営などの事業で、補助業務を中心として市民ボランティアを活用します。 募集:年5回以上</li> </ul>	<p>5つの事業で計85名のボランティアを受け入れました。今後はさらに多様な活動に市民が参画できるよう、活動内容の多様化が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どものアトリエ 親子のフリーゾーンで25名のボランティアを採用しました。1回あたり3～6人のサポートがあります。</li> <li>● 美術情報センター ボランティア14名を受入れ、チラシファイリング、作家ファイルリスト作成、補修、装備、カウンターサポートの5グループに分かれて活動しました。</li> <li>● 広報広聴 東芋展、コレクション展のアンケートのモニター・ボランティアを延べ40名受け入れました。</li> <li>● その他 映像作品を紹介する二つの事業「イメージフォーラム・フェスティバル」「ヴァイタル・シグナル」で、それぞれ3名、延べ6名のボランティアを受入れました。</li> </ul>
---	---

(4) 子どもに対する取り組み事業

① 造形教育事業

<p>造形及び鑑賞活動を通して子どもたちの生涯にわたって美術を愛する心を育みます。幼児・児童を対象とした体験型プログラムを提供するとともに、学校教育と連携したプログラムをより一層充実させます。</p> <p>① 学校のためのプログラム 年間90日 小学校35校、幼稚園・保育園35園、養護/各種学校20団</p>	<p>「子どもの内面の成長を支援する美術教育」の一貫した活動が教師や保護者の信頼を得ており、授業に関する相談が増えるなど、教育に関するパートナーとして発展しています。「学校ためのプログラム」は教師との連携、親子のフリーゾーンなど個人対象プログラムは市民との協働、現場での体験をインターンと共有しながら行う連携体制が定着してきました。</p>
--	--

<p>体</p> <p>② 個人の造形プログラム</p> <p>わくわく日曜造形講座 全3回 11講座</p> <p>わくわく1日造形講座 6講座</p> <p>夏休み造形講座 全3回 3講座</p> <p>親子のフリーズーン 年間42回開催</p> <p>教師のためのワークショップ 春期・夏期講座開催(各全2日)</p> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 講座の定数、定員の100%確保を目指します。</li> <li>● ホームページにブログを開設し事業の様子を紹介します。</li> <li>● 企業と連携し、アウトリーチを実施します。</li> <li>● 「親子のフリーズーン」をサポートする市民ボランティアを受入れます。年間10名</li> </ul>	<p>講座の定数、定員100%以上の実施を達成しました。</p> <p>① 学校のためのプログラム</p> <p>年間91実施。内訳:市内小学校35校3,139人、市内幼稚園・保育園35園1,861人、各種学校2校100人、養護学校関係19団体1,387人。参加者合計6,487人</p> <p>② 個人の造形プログラム</p> <p>各種造形講座22講座開催。定員110%の参加</p> <p>親子のフリーズーン42回開催19,830人の参加。(1回平均472人)</p> <p>教師のためのワークショップ夏期・春期講座</p> <p>定員160%の参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 美術館ホームページ上に「子どものアトリエ」ブログ枠の準備が整いました。2010年度春から本格的に開始します。</li> <li>● 横浜信用金庫の協賛を受け、3回のアウトリーチを実施しました。8月22日天王町商店街、1月14日文庫幼稚園、1月28日金港幼稚園</li> <li>● 「親子のフリーズーン」のサポートボランティアを公募し25人を受入れました。うち約12名が継続して活動中です。</li> </ul>
<p>② 展覧会事業</p>	
<p>子どものアトリエ“ミニギャラリー”にて通年で開催</p> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間3テーマ実施します。</li> </ul>	<p>「創作風」「遠山和美のおさんぼ虫」2テーマを開催しました。当初予定では、8月、12月の展示替えを予定していましたが、鑑賞者は子どものアトリエ利用者に限られるため、年1回の展示替えで充分効果は果たせると判断しました。今後は年間2テーマとしたいと考えます。</p>
<p>③ 企画調査事業</p>	
<p>学校との連携を前提として企画運営委員会を開催し、子どものアトリエ事業の企画、運営についての報告と意見をいただきます。</p> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 開館20周年企画として美術館教育普及シンポジウムを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画運営委員会を3/13に開催しました。</li> <li>● 子どものアトリエ20周年記念シンポジウム「学校教育と美術館」を3/13に開催しました。参加者数43人(教育関係者)。</li> </ul>
<p>④ 指導者の育成</p>	
<p>美術を通し、子どもたちの未来にむけた感性と自立を育む活動を支える指導者を育成します。</p> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 指導者研修 年間10講座</li> <li>● 学生研修 年間3講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教師、指導者研修を6回開催しました。参加者数259人。</li> <li>● 学生研修はゼミなどの担当教官の申し出により受入れており今年度も継続の予定でしたが、今回は申込みがありませんでした。</li> </ul>
<p>(5) 市民の創作活動支援事業</p>	
<p>市民のアトリエを活動の場として、「つくることにより美術を考える」というメインテーマのもとに下記の方針で取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的に市民(12才以上の広く一般の方々)を対象とし、市民生活と美術の関係を模索しつつ、市民の創作活動を支援します。</li> </ul>	<p>横浜開港150周年という節目の年に、幅広い視点でワークショップを開催しました。全体で90%の参加率を確保しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 初めてシリーズ</li> <li>・ 初めての陶芸教室 10回コースを2コース</li> <li>・ 初めての絵画教室 6回コースを2コース</li> </ul>

- ・ 地域との連携を大切にし、美術実技の紹介、指導等を必要に応じて実施します。

(達成指標)

- はじめての方も参加できるような講座を企画し、指導員や講師等と共に有意義な時間を過ごせるように実施します。
- 市民の創作に有益な場合、展覧会と連携した講座を設けます。
- 講座(ワークショップ) 目標 40 コース
- 気軽に参加できる短期のワークショップ
- アート表現に取り組むプログラム
- 時間をかけてじっくり取り組むプログラム
- 展覧会と連携した内容のプログラム
- オープンスタジオ 目標 20 コース
- 立体、平面、版画各室でアトリエ環境を考慮し、参加者が場を共有しながら、自主的に制作に取り組むプログラム。指導員は適切なアドバイスができるように努めます。
- 横浜美術館塾との連携 横浜美術館塾において実技的内容の講座を担当します。

- ・ 版画基礎コース 6 回コースを7 コース
- アート表現のプログラム・時間をかけてじっくり取り組む実技コース
  - 前期にドローイング、水彩、油絵、木版画、リノカット、木彫、ガラスアート等を、後期にリトグラフ、彫刻関係3講座、銅版画、中国工筆画、水彩、シルクスクリーン、陶芸等、平面から立体まで、様々なニーズに応える内容を実施しました。
- 木彫講座において、時間内に作品を完成できない受講生を対象とした延長講座を行いました。また、オープンスタジオにおいては、関連ステップアップ講座として特別ブロンズコースを実施し、参加者の達成度を高めました。
- 展覧会と連携したプログラム
  - ・ 金氏徹平展  
「白地図の線をつないでみよう」:作家本人を講師とした講座を 4/19(日)に開催しました。
  - ・ 大・開港展  
「芝山細工の妙技」お話と実演:芝山細工を紹介し、お話しと実演、参加者体験により、つくる角度から展覧会をより深く理解する講座を 10/25(日)に開催しました。
  - ・ コレクション展  
動物彫刻の面白さ(木彫)「生活空間に遊びを」  
5/2～6/20 土曜8回 彫刻家大島康幸氏等を講師としたワークショップを開催しました。
- 横浜開港 150 周年と連携したプログラム
  - ・ 横浜開港 150 周年記念講演「鑄金技法と音と形」香取孝彦氏を講師とし、4/29(日)に参加者 100 名で実施。開港 100 周年時に造られた愛市の鐘をはじめ、人間国宝による梵鐘から洋鐘までの、技法や音の違い等に触れました。
  - ・ 150 周年記念ワークショップ「鑄金による鈴づくり」4/29(日)に参加者 20 名で実施。
  - ・ 150 周年記念ワークショップ 木のある暮らし「老木に学び、植樹をしましょう」樹木医の協力により、老木、古木の見学、環境創造局の進める150周年の森での記念植樹も体験し、美術と環境の関係を探りました。2 月の毎週日曜、計 4 回開催。
- オープンスタジオ
  - 参加者が自主的に制作できるようサポートを行い、美術を通じた出会いを大切に運営を行いました。
  - 21 コース及び特別スタジオコース 2 コース
- 横浜市芸術文化教育プログラムに参加し、絵の具と修復についてのアウトリーチ授業を実施しました。
  - 開催日:大正中学校(戸塚区)11 月 24 日、25 日  
小田中学校(金沢区)12 月 1 日、17 日

(6) 創作活動支援事業	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 館内施設での国内外の若手、新進アーティストによる創造・発表活動を支援します。</li> <li>・ アーティストの表現活動を核とした、市民と地域との交流を促進し、アートを介した人的ネットワークを形成します。</li> <li>・ 創造界及び市内のアートプログラムにおけるアーティストの創造・発表活動を支援します。</li> <li>・ 横浜発の新しいアートの発信を目指します。</li> </ul> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新進アーティストによる滞在制作、展示企画を実施します。</li> <li>● アーティスト・イン・ミュージアム横浜 (AIMY) アーティストを公募により選出します。</li> <li>● 開港 150 周年記念事業および横浜トリエンナーレ第 4 回展への情報提供を目的とした新進アーティストの調査、資料収集。</li> <li>● 新進アーティストによるトーク、スクリーニングなどを実施します。(New Artist Picks (NAP))</li> <li>● AIMY アーティスト活動記録集 2008 年度版を製作します。</li> </ul>	<p>昨年度に引き続き黄金町エリアマネジメントセンターとの連携により事業を実施しました。2005 年から開始し、5 年目となった本年は、初期のプログラムに参加したアーティストが国内外の企画展やアーティスト・イン・レジデンス事業に招聘されるなど、中期的な展開の中で一定の成果を出すことができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2009 年度アーティスト・イン・ミュージアム横浜 (AIMY) 事業では、ヨコハマ国際映像 2009 との関連を重視し志村信裕を選定し、10/23 から 11/23 まで志村信裕展「うかべ」を開催しました。滞在制作は、黄金町エリアマネジメントセンターとの連携で行ない、展示期間中美術館でアーティストトーク、ワークショップを実施しました。志村信裕はプログラム参加後、台湾の台北国際芸術村のレジデンスアーティストとして選出されると共に、あいちトリエンナーレ 2010 の参加アーティストに選出されました。美術館での展示が作品や作家に関する問い合わせの契機になり、若手アーティストの活動の支援につながりました。</li> <li>● 第 4 回横浜トリエンナーレへの情報提供も含め作家の選定、資料収集を行ないました。</li> <li>● 2005 年の AIMY 立ち上げから 2008 年までの活動記録をまとめました。東京藝術大学との連携により 2008 年度の活動についての記録映像を製作しました。また、2009 年「うかべ」については記録パンフレットを作成するとともに、城西国際大学との連携により映像、音声の記録を行ないポッドキャストによる配信を行ないました。</li> </ul>

(7) 広報営業事業	
① 広報・広聴	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広く市民に事業を周知する広報を確立します。</li> <li>・ 対面アンケートとホームページの 2 軸でアンケートを実施、館の運営に反映します。</li> </ul> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 指定管理者共同事業体と協力した広報</li> <li>● プレスリリースの実施:年 4 回</li> <li>● 広報印刷物の掲出依頼:年 4 回</li> <li>● より良い館運営を実現するための「お客様広聴プログラム」をつくります。対面アンケートやホームページでもお客様の意見を拾い、より良い館運営のために「お客様広聴プログラム」に反映します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 共同事業体・相鉄エージェンシーと協力した広報</li> <li>・ 年 4 本の企画展にあわせたプレスリリースを行いました。</li> <li>・ 企画展等の情報を、広報よこはま周辺区版に掲載し、地元広報を強化しましたが、入場者増につながらなかったため媒体計画を見直します。</li> <li>● 「束芋 断面の世代」の開催期間中に、モニターアンケートを実施し、各事業の周知度等について調査を行いました。</li> <li>● 「お客様広聴プログラム」については、次年度の新体制の中で達成に向けて取り組む予定です。</li> </ul>

② 収益を目的とした事業	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Heart to Art 事業のさらなる充実を図ります。</li> <li>観客誘致のさらなる推進と事業収入の増収のために、新規の宣伝活動と収益事業に取り組みます。</li> </ul> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業協賛を得るために必要な館の集客能力を高めるため、観客誘致につながる宣伝ツールを開発します。</li> <li>Heart to Art 活動への企業誘致に取り組めます。</li> <li>施設の活用、特にレクチャーホールとコレクション展示室、平面室などを活用した継続可能な観客誘致事業(例:鑑賞講座など)を立ち上げます。</li> <li>多くの市民に資金調達してもらい開催する事業プログラムをつくります。(展覧会や AIMY など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Heart to Art 事業 企業誘致は 5 社、協賛金は 2,200 万円で収入予算を達成しました。</li> <li>観客誘致事業 レクチャーホールを活用した商品開発を行い、販売を始めました。</li> </ul> <p>《開発商品》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 新・利用プラン: 平日枠を利用したピアノ・照明・指揮台など基本的なものがセットになった商品。</li> <li>② ピアノに熱中! : 平日枠を利用したスタインウェイのフルコンサートピアノを利用いただける商品。 試行後上記の2商品を合体させた「平日利用の練習割引プラン」を発売してヒットしました。年度末までにリピーターも増加し、1ヶ月前までには利用枠がほぼ埋まり、レクチャーホール利用率向上につながりました。</li> <li>③ ハンドベル演奏会の団員募集: ハンドベル講座を実施して、クリスマスにレクチャーホールとグランモール公園で発表演奏をしました。その後も、活動がレクチャーホールの利用率向上につながっています。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜美術館フレンズ 市民から資金支援を募るプログラムを始動させました。2010年度の参加者口数は 111 口となりました。全国の公立美術館に先駆けて行い、新聞や美術関係者から広く支持されると同時に、横浜美術館のコレクションの魅力を認識してもらう機会となりました。次年度の募集と継続に向けて、対象者に対する迅速なレスポンス及びさらなる PR が必要となりました。</li> </ul>

(8) 横浜開港 150 周年事業等の支援	
横浜開港 150 周年事業に横浜美術館のノウハウを活かした支援。	展覧会から地元連携まで、幅広い分野で横浜開港 150 周年と連携しました。150 周年事業との連携は、観客誘致や収益にもつながり、成果をあげました。特に、アートギャラリーを有料ゾーンとして活用した「柳宗理展」は、今後の収益獲得モデルとして成果をあげました。また、150 周年事業をきっかけとした西区との連携は、今後も継続して行います。
① 「イリス 150 周年 日本の近代化と共に歩んだあるドイツ商社の歴史」展	
<p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「イリス 150 周年 日本の近代化と共に歩んだあるドイツ商社の歴史」展目標入場者数 6,000 人</li> </ul>	横浜開港 150 周年の趣旨に合致した企画を横浜港開港と同時に横浜で創業したイリス社とタイアップして開催し、理想的な企業協賛のモデルを示しました。広く媒体でも紹介され、8,679 人の入場者数があり、目標を達成しました。
② 横浜開港 150 周年&横浜・リヨン姉妹都市 50 周年記念 文化交流事業〈絹の旅ー横浜からリヨンへ〉	
6 月初旬～8 月末までに約 7 日間を予定。 (達成指標)	横浜市国際室及び横浜観光コンベンションビューローと連携し、カフェ小倉山でのパネル展示と、リヨン青年大使による講演会、捺染技術の体験ワークショップ、以上3つの事業が連動して
<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜開港 150 周年&amp;横浜・リヨン姉妹都市 50 周年記念 文</li> </ul>	

<p>化交流事業 目標入場者数 1,000 人</p>	<p>成果を上げることができました。</p>
<p>③ 原三溪市民研究会</p>	
<p>原三溪の事蹟を市民や関係機関と協働で調査研究、成果を書籍に刊行することによって広く市民に原三溪への理解を深める。</p> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● (財)三溪園保勝会と協働で組織した、公募での市民メンバーによる研究会にて、藤本實也稿本『原三溪翁伝』の校訂作業を終え、思文閣出版より刊行します。</li> <li>● 市内関係公共機関等へ同刊行物を配布、大学等他施設の研究者や市民参加によって刊行記念講演会等を開催し、原三溪像の多角的な理解と考察を促し、市民に調査研究参加の一層の機会を提供。</li> </ul>	<p>原三溪市民研究会を毎月第 2 土曜日に実施し、藤本實也の稿本『原三溪翁伝』の校訂作業に取り組み、同書を思文閣出帆より刊行しました。発刊された『原三溪翁伝』を関係公共機関に配布しました。</p>
<p>④ アーティスト・イン・ミュージアム</p>	
<p>アーティスト・イン・ミュージアム横浜で関連事業を実施します。</p> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● アーティスト・イン・ミュージアム横浜の公募企画として、開港 150 周年にふさわしいアートプロジェクトを募集します。</li> </ul>	<p>ヨコハマ国際映像祭に関連させ新進映像作家志村信裕を選抜し、10/23 から 11/23 まで志村信裕展「うかべ」を開催しました。</p>
<p>⑤ 横浜開港 150 周年事業と連携した観客誘致</p>	
<p>横浜開港 150 周年事業と連携し、観客誘致を推進します。</p> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設のスペースを有効に活用した連携を行います。</li> <li>● Y150 入場券とタイアップした展覧会料金を設定します。</li> <li>● Y150 イベントスポットを館内に設置し、観客誘致を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 4/2(木)～4/5(日) グランドギャラリーで「FUNЕプロジェクト」開催。</li> <li>● 2/13(金)～6/2(火) グランドギャラリーに日比野克彦作の船を 3 艘展示。</li> <li>● 4/28(火)～9/27(日)開国博ベイサイドチケット提示で展覧会を 100 円引き。</li> <li>● 4/28(火)～9/27(日)たねまるポットをグランドギャラリーに設置。</li> <li>● 横浜開港 150 周年記念「柳宗理展」をアートギャラリーで開催。会期:7/7～8/31 入場者数 10,199 人</li> <li>● 市庁舎屋上にある、愛市の鐘を取り上げた講演会「鐘の魅力を語るー鑄金技法と音と形」、関連ワークショップ「鑄金による鈴づくりー自分でつくってみましょう」を開催。</li> <li>● 5/5(祝)「ヨコハマ・ワールド・ウォーク・スタンプラリー」に協力。(スタンプポイントの設置、抽選会、写真撮影会を実施)</li> <li>● 12/19(土)西区開港 150 周年記念事業「キャンドルアート」に協力。</li> </ul>
<p>(9) 横浜トリエンナーレ関連事業等への支援</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横浜トリエンナーレ第 4 回展にむけて、アーティストの調査、資料収集を行います</li> <li>・ アジア周辺地域(韓国、中国、オーストラリア、タイ等)との相互協力関係を強化し、人的交流とアートを支える内外の人材ネットワークの構築とその活用に向けた環境を整備し</li> </ul>	<p>トヨタ財団および公益信託タカシマヤ文化基金、財団法人野村国際文化財団の助成を得て、3ヶ年にわたって取り組んだ「アジア・アート・ネットワーク」事業の最終年度にあたり、黄金町エリアマネジメントおよびヤマトロジスティクス株式会社と連携し、アジア地域の人的交流と人材育成に貢献できました。</p>

ます。

(達成指標)

- アジアにおけるアート・ネットワーク形成のためにシンポジウムとワークショップ開催します。
- 20名のアーティストについて調査、資料収集を行います。

- シンポジウム: 黄金町エリアマネジメントセンターと協働し、9/2にシンポジウム「台北龍山寺地区・横浜黄金町 まちづくりネットワーク」を開催しました。
- ワークショップ: ヤマトロジスティクス株式会社美術品輸送カンパニーの協力を得て、国内外のアーティスト、キュレーター、ギャラリストを対象とした「美術作品ハンドリング・ワークショップ」を3/20に実施しました。
- その他: 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局を横浜美術館内に設置しました。

## ■施設運営■

### (1) 施設の提供

- ・ 通常の開館日に加え、年末年始開館、休館日を活用した新たな活動など、魅力的な施設提供を行います。
- ・ 誰にでもやさしくホスピタリティーあふれるバリアフリー施設。

(達成指標)

- 年始は1月2日から開館します。
- 協賛メリットとしての特別鑑賞会やパーティーの開催など、休館日を活用した活動を安全に行えるよう支援します。
- 介護士等の指導によるバリアフリーに関する職員研修。

休館日に行う施設の保守点検や展示作業と調整し、利用内容を審査した上で施設を有効に活用しました。また、外部からの施設利用要請に対しても、柔軟に対応することで、施設利用の問い合わせも増えました。今後も有効に施設を活用し、収益につなげます。

バリアフリー研修は、今後も継続し、来年度は障がい者を対象とした鑑賞支援事業を計画します。

- グランドギャラリー  
4/2(木・休館日)～4/5(日)「FUNE プロジェクト」  
4/19(日) 金氏徹平: 溶け出す都市、空白の森  
「白地図の線をつないでみよう」  
6/3(水) イリス祝賀パーティー (Heart to Art 事業)  
8/15(土) アーバン・オペラ
- 美術の広場 6/14(日) 閉館後「あかり・アーツ」
- カフェ 12/13(日)～19(土)  
西区と連携し、西区子どもの絵画展をカフェ内ライブラリースペースで開催しました。
- レクチャーホール 2/26(金)  
西区に協力し、横浜市西区地域子育て支援拠点開所記念講演会をレクチャーホールで開催しました。
- 1/2(土)から開館しました。
- バリアフリー研修  
3/1(月)、9(火) 神奈川県ライトセンターから講師を招聘し、バリアフリー研修「視覚障がい者のお話と視覚障がい者の誘導のしかたについて」を職員、スタッフを対象として実施しました。

(2) レクチャーホールの管理運営	
<p>レクチャーホールを効率的に運営します。</p> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● レクチャーホール平日枠の利用を促進するため、YMA Live(観客誘致事業)と連携した運営を行います。</li> </ul>	<p>利用率の低かった平日枠を活用できる新商品の開発は、大きな実績となりました。「新・利用プラン」「ピアノに熱中」の売上げも順調でレクチャーホールの利用率向上に寄与しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● YMA Live に参加可能なレクチャーホールの新商品「新・利用プラン」「ピアノに熱中」を販売しました。</li> <li>● YMA Live の名称を「レクチャーホールでコンサート」に変更し、2/24(水)に実施しました。</li> </ul>

(3) 美術情報センター運営	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和・洋雑誌の収集を継続して行います。</li> <li>・ 展覧会と連動した図書や映像資料を公開します。</li> <li>・ 利用促進を目的とした広報を積極的に行います。</li> <li>・ ボランティアとともに活動し市民に開かれたセンターを目指します。</li> <li>・ 受け入れ図書を迅速に公開できるように手続きを工夫し、業務を効率化します。</li> <li>・ 収蔵図書データを他の美術館と共有し広く市民に公開します。</li> </ul> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 美術図書と映像を活用して展覧会事業を支援。企画展毎年4回</li> <li>● 美術館ホームページやメールマガジンにセンターの紹介を掲載。</li> <li>● 図書ボランティアを受け入れます。</li> <li>● 受け入れ目標 6名</li> <li>● 引き続きカタログ類の受け入れ作業の効率化を図ります。</li> <li>● 美術図書館横断検索(ALC)に参加して美術図書を市民が有効に活用できるように情報提供します。</li> </ul>	<p>事業に関連する資料を有効に活用し、市民サービスに努めました。また、展覧会連携コーナー、若手作家支援事業への作品展示スペースの提供、横浜美術館フレンズコーナーの設置、横浜美術館塾受講生向けの見学会など、積極的に他事業支援を行いました。</p> <p>ボランティアの受け入れは、引き続き力を入れて行いました。その中から、企画展鑑賞、市民のアトリエ講座や横浜美術館協力会への参加者が現れるなど、横浜美術館のファン拡大にも寄与しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 展覧会事業支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企画展ごとに関連資料コーナーを設置しました。また、関連映像資料をまとめたチラシを作成し、資料紹介を行いました。</li> <li>・ カフェと連携した「カフェ・ライブラリー」(企画展関連図書・カタログや横浜美術館カタログ)を設置しました。</li> <li>・ コレクション展関連資料コーナーを設置しました。</li> <li>・ 「ヨコハマ・フォト・トライアングル」など、横浜美術館関連事業の資料コーナーを設置しました。</li> <li>・ AIMY「アーティスト・イン・ミュージアム 2009 志村信裕展」の作品をセンター内に展示しました。</li> </ul> </li> <li>● 所蔵資料紹介 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月ごとにテーマを設けた「特設資料コーナー」を設置しました。(4月眞板雅文、5月幕末・明治の写真、6月フランス月間、7月小島烏水、8～9月エジプトの本、10～11月洋風画、12～2月横浜美術館フレンズ関連外国人作家、2～3月横浜美術館フレンズ関連日本人作家)</li> <li>・ 書庫保管の大型本、貴重本をガラスケースに展示しました。(小林清親、ミケランジェロ・システイーナ礼拝堂フレスコ画)</li> </ul> </li> <li>● 蔵書検索公開 <ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットを通じて当館の蔵書検索および ALC 加盟館(8館10室)横断検索を広く一般に公開しました。</li> </ul> </li> <li>● 広報</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術館ホームページ、メールマガジンを活用し、センターの事業紹介や募集を行いました。</li> <li>・ 各種取材を受け入れました。(㈱ブレインテック発行情報館ユーザー向け会報『News Letter』、埼玉県立近代美術館友の会会報)</li> <li>● ボランティア 2009年8月～2010年3月に市民ボランティア14名を受け入れ、チラシファイリング、作家ファイルリスト作成、補修、装備、カウンターサポートの5グループに分け活動を実施しました。</li> <li>● 普及事業 横浜美術館塾受講生を対象としたオリエンテーションや資料の紹介、市民利用者対象の探検ツアー(全3回)を実施しました。</li> <li>● 作業効率化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チラシ、ダイレクトメールの受け入れ方法を改良しました。</li> <li>・ 印刷物表記による仕分けから日本著者記号表に基づく仕分けに統一しました。【例】オオイ(OHI、OOI、OI⇒OIに統一)</li> <li>・ 日本人・外国人別だった仕分けを統一して50音順とし、受け入れ時に仕分けることで時間を短縮しました。</li> </ul> </li> <li>● 学芸教育グループ研究の補助 学芸教育グループ職員が研究のため大学図書館等所蔵資料の閲覧・複写を希望した際、図書館への照会や閲覧時に必要な紹介状の発行を行いました。</li> </ul>
--	--

(4) ミュージアムショップ・カフェ・駐車場運営

① ミュージアムショップ

横浜美術館ならではの高いデザイン性とお客様のニーズに応える日常性及び価格設定を融合させた品揃えにより、堅実かつユニークな経営を目指します。

- 収蔵作品等によるオリジナルグッズ、展覧会関連グッズに加え、主催事業に関連するアーティストと協働して商品開発を推進します。
- 常設のミュージアムショップ、開催中の展覧会関連商品に特化して販売を行う特設ショップ、オンラインショップの3つを柱として販売します。常設のショップ内には、アーティストブランド等の限定商品コーナーを設置し、Heart to Art 事業を通じて民間企業との連携を図ります。

ミュージアムショップでは、新たな試みとして企業とタイアップした企画展関連商品開発を行いました。年2回の実績は今年度の大きな成果といえます。また、カフェについては、企画展ごとに特別メニューを開発し、企画展記者発表時にPRを行いました。カフェへの取材も入るようになり、広報効果をあげています。

- 金氏徹平展：作家及びスタージュエリー(元町)と協働して、商品開発を行いました。販売はミュージアムショップとスタージュエリー店舗(元町)の双方で取り扱いました。販売実績37個。
- 大・開港展：虎屋と協働し、展覧会限定商品《季節の羊羹「海」》を販売しました。販売実績36個。
- 企画展ごとに特設コーナーを設けました。
- オンラインショップに季節に合わせたコーナーを作り、販促に努めました。(例：バレンタインデー・コーナー、ホワイトデー・コーナーなど)

② カフェ	
<p>展覧会をはじめとする主催事業と連携し、センスの効いた什器とフリースペースを活用して心地良い空間づくりに努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 季節や展覧会の内容に応じた限定メニューを開発します。</li> <li>● フリースペースや壁面に AIMY/NAP やアトリエ事業と関連する美術作品を展示しギャラリーカフェとしての魅力を打ち出します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画展ごとに特別メニューを提供しました。同メニューは、企画展記者発表時に告知し、PR に努めました。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 金氏徹平展： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抹茶フロート(作品をイメージしたメニュー)</li> </ul> </li> <li>② フランス絵画の 19 世紀展： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シュークリームパフェ(フランス国旗3色のパフェ)</li> <li>・ ラ・フランスソーダ</li> </ul> </li> <li>③ 大・開港展： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昔ながらのどら焼きパフェ(江戸時代に広まったどら焼きの原型「助惣焼き」をイメージしたメニュー)</li> <li>・ ひじきごはんプレート(客層に配慮したメニュー)</li> </ul> </li> <li>④ 東芋展： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東芋ピタサンドとミネストローネプレート(じゃがいものピタサンド)</li> <li>・ あったかりんごとお芋のパフェ(さつまいものパフェ)</li> </ul> </li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 美術情報センターと連携して、カフェ・ライブラリーを設置し、企画展関連図書を自由に閲覧できるようにしました。</li> <li>● 横浜美術館フレンズと連携したメニューを開発し、期間限定で提供しました。販売実績 439 食で、4 口の横浜美術館フレンズとなりました。</li> </ul>
③ 駐車場	
<p>来館者サービスと美術館収益のため、一般利用駐車場、定期利用駐車場及びバス駐車場を運営します。</p> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 固定的な収入獲得のため、定期利用駐車場の増車を検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般駐車場及び団体バス駐車場の運営を行いました。</li> <li>● 定期利用駐車場の運営を行いました。定期利用駐車場の増車については調整中です。</li> <li>● 団体有料バス誘致のため、はとバス及びランドマークスカイガーデンと提携しました。</li> </ul>
(5) NPO 活動支援センター運営	
<p>神奈川県ライトセンターと連携して「目の不自由な市民のための鑑賞サポート」を行うNPOの立ち上げと、活動を支援します。</p> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ライトセンターの通信システムに美術館の展覧会紹介を組入れ。</li> <li>● 企画展ごとにサポーターの実習を兼ねた「鑑賞会」を行います。年 4 回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 神奈川県ライトセンターとの連携は、今後、展覧会に視覚障がい者鑑賞支援を盛り込む方向となりました。団体設立支援の点では指標を達成できませんでしたが、視覚障がい者鑑賞支援事業を来年度の助成金事業として申請中です。</li> <li>● NPO 活動支援センターとして想定したスペースの一部を横浜トリエンナーレ 2011 組織委員会事務局に提供し、その間横トリサポーター関連の打ち合せ等に有効に活用されました。外部使用に伴う施設管理上の問題は今後の課題です。</li> </ul>

<p>(6) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各チームの専門性が総合された事業を展開します。</li> <li>・ 経営アドバイザー会議を開催し、運営に関する外部意見を積極的に取り入れます。</li> <li>・ 各事業で自己評価を行い、PDCAサイクルを実施します。</li> </ul> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全館的に取り組む事業についてはプロジェクトチームを組織し事業を進めます。</li> <li>● 経営アドバイザー会議 年3回開催</li> <li>● 各事業で自己評価を行います。</li> </ul>		<p>前年のプロジェクト数を見直し、今年度は開館 20 周年記念プロジェクトに力を入れました。プロジェクト数の見直しにより職員の負担を軽減することができ、それぞれのプロジェクトが有効に機能しました。</p> <p>経営アドバイザー会議は年3回の予定でしたが、アドバイスを結果につなげる期間も考え、年2回としました。回数を減らしたことにより、アドバイスによる改善の計画、実行、成果の報告、さらなるアドバイスという PDCA サイクルが実現できました。今後も年2回の開催を予定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● プロジェクトチーム <ul style="list-style-type: none"> <li>① ニューショッププロジェクト: 金氏徹平展でのジュエリー開発</li> <li>② 開館記念日プロジェクト: 開館記念日 11/3(祝)を中心に各種イベントを開催しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>10/30～11/3 はたちの横浜美術館-20年の記録-</li> <li>10/31～11/3 ミュージアムショップ 20%OFF セール</li> <li>カフェ小倉山開館 20 周年記念メニュー</li> <li>11/3 子ども向けワークショップ、記念写真コーナー、カフェ小倉山クッキーサービス</li> </ul> </li> <li>③ ジャズライブプロジェクト: 美術館前でのジャズライブの企画・実施</li> </ul> </li> <li>● 経営アドバイザー会議を開催しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 平成 21 年 10 月 14 日(水)</li> <li>第2回 平成 22 年 3 月 16 日(火)</li> </ul> </li> <li>● 自己評価を実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各事業で個別事業評価を実施しました。</li> <li>・ 企画展終了後に収支決算等の実績をグループ長会議で振り返り、反省点を次回に活かしました。</li> </ul> </li> </ul>
---	--	--

<p>■ 施設管理 ■</p>		
<p>(1) 安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急レベルに応じた危機管理体制を整備します。</li> <li>・ 消防・警察との連携を図ります。</li> <li>・ 正確で安全な現金管理を行います。</li> </ul> <p>(達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 消防訓練を実施します。 年2回</li> <li>● 危機管理マニュアルを最新のものに更新し、全職員に周知。</li> <li>● 展示によって会場構成が大きく変わる展覧会については事前に消防に届け、助言を受け、必要な消火器の設置や人員配置を適切に実施します。</li> <li>● 施設管理統括者である三菱地所ビルマネジメントと常に連絡・協議・調整を図ります。毎月1回以上ミーティングを行います。</li> </ul>		<p>6月の消防法の改正にあわせ、防火防災管理者資格取得講習の受講や資格の取得を推進し、訓練もそれに準じたものとなりました。地震を想定した訓練の実施により、地震発生時の館内の閉じ込め危険箇所や落下物への対応などを具体的にイメージすることができ、職員の安全管理意識向上につながりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 防火・防災訓練 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 平成 21 年 11 月 16 日(月) 防火訓練</li> <li>第2回 平成 22 年 3 月 23 日(火) 防火・防災訓練</li> </ul> </li> <li>● 危機管理マニュアル作成</li> <li>● 消防への届出: 展覧会などイベント開催時は滞りなく消防への届出を行いました。</li> <li>● 共同事業体定例会: 三菱地所ビルマネジメントと毎月1回定例会を開催し、施設管理についての情報共有と改善案を</li> </ul>

話し合いました。

■その他■

(1) 個人情報保護

職員・スタッフ一同、取り扱いの重要性を認識、業務を行います。

(達成指標)

- 個人情報保護研修を全スタッフを対象に行います。年 1 回

計画どおりの研修実施を実施し、個人情報の取り扱いと、漏洩事故が発生した場合の対応手順などを改めて確認できました。

- 個人情報研修:12/15(火)、18(金)に職員及びスタッフを対象とした個人情報研修を実施しました。

(2) 情報公開

- ・ 事業報告及び収支決算、事業計画及び収支予算をホームページで公開します。
- ・ 新収蔵作品目録を発行します。

(達成指標)

- 事業報告及び収支決算、事業計画及び収支予算を理事会終了後 1ヶ月以内に公開します。
- 2008 年度収蔵作品の目録を制作・発行します。
- 2004 年度分収蔵作品目録(総点数 1565 点)の発行に向けて、作品撮影(1513 点分)を実施します。

- 平成 21 年度事業計画及び収支予算、平成 20 年度事業報告及び収支決算をホームページで公開しました。

平成 21 年度事業計画及び収支予算 4 月 13 日

平成 20 年度事業報告及び収支決算 6 月 26 日

- 2004 年度分収蔵作品の撮影を継続しています。

## 5 決算

平成 21 年度 横浜美術館決算

収入

(単位:円)

項目	決算額	備考
指定管理料	543,125,000	
利用料金	27,208,665	コレクション展、レクチャーホール、特別利用料(図版等)
事業収入	110,548,853	企画展、アトリエ、美術館塾
助成金等	76,465,102	企画展・観客誘致協賛金助成金等
その他収入	112,519,729	ショップ、駐車場、カフェ等
合計	869,867,349	

支出

(単位:円)

項目	決算額	備考
人件費	264,647,109	旧一般会計分
事務費	12,650,565	消費税、券売システム、経理・金融システム利用費
管理費	241,864,483	施設管理経費等
事業費	273,769,950	企画展、コレクション展、アトリエ、観客誘致、学芸業務、図書事業等
負担金	788,000	年会費等負担金
その他の支出	81,574,955	ショップ、駐車場等経費
合計	875,295,062	

収支差額	△5,427,713	
------	------------	--

## 6 人員配置

項目	人数	備考
館長	1	
主席学芸員	1	
グループ長	4	経営管理グループ長1 学芸教育グループ長1 創造活動支援担当グループ長1 マーケティング担当グループ長1
チームリーダー及び担当リーダー	9	経営管理チームリーダー1、主任学芸員3、主任コーディネーター1、担当リーダー4
職員	25	経営管理グループ 11 学芸教育グループ 14
計	40	学芸員12 指導員7 司書3 事務職18

## 7 平成 21 年度事業一覧

事業名	開催日	主催・共催・後援・協力	入場料 受講料	目標 人数	入場者 合計
金氏徹平:溶け 出す都市、空白 の森	3/20 -5/27	主催:横浜美術館/協力:京浜急行電鉄、相模鉄 道、東京急行鉄道、みなとみらい線、横浜ケー ブルビジョン、横浜市 ケーブルテレビ協議会、FMヨコ ハマ、首都高速道路株式会社	一般 1,000 (900)円 / 大学・高校 生 700(600) 円/中学生 400(300)円	15,000	16,189
横浜開港 150 周 年記念/開館 20 周年記念 フランス絵画の 19 世紀 美をめぐる 100 年のドラマ アングル・ドラクロ ワ・マネ・ルノワ ール・・・	6/12 -8/31	主催:横浜美術館、日経新聞社/後援:フランス大 使館、横浜市市民活力推進局、NHK 横浜放送局、 財団法人横浜開港 150 周年協会/協賛:損保ジャ パン、大日本印刷、日本経済新聞デジタルメディア /協力:日本航空、JR 東日本、京浜急行電鉄、相 模鉄道、東京急行電鉄、みなとみらい線、横浜ケー ブルビジョン、横浜市ケーブルテレビ協議会、FMヨ コハマ、首都高速道路株式会社、財団法人横浜観 光コンベンションビューロー	一般 1,400 (1,300)円 /大学・高 校生 1,100 (1,000)円/ 中学生 800 (700)円	150,000	115,967
横浜開港 150 周 年記念/開館 20 周年記念 大・開港展-徳川 将軍家と幕末明 治の美術	9/19 -11/23	主催:横浜美術館、財団法人徳川記念財団、毎日 新聞社/後援:横浜市、NHK 横浜放送局/協力: みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、横浜市ケー ブルテレビ協議会、FMヨコハマ、首都高速道路株 式会社/特別協賛:財団法人横浜開港 150 周年協 会	一般 1,000 (900)円 / 大学・高校 生 700(600) 円/中学生 400(300)	50,000	35,015

<p>開館 20 周年記念 束芋:断面の世 代</p>	<p>12/11 -3/3</p>	<p>主催:横浜美術館、読売新聞社／後援:横浜市市民 活力推進局／協力:NEC ディスプレイソリューション ズ株式会社、ギャラリー小柳、横浜赤レンガ倉庫 1 号 館、みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、横浜市 ケーブルテレビ協議会、FMヨコハマ、首都高速道 路株式会社／助成:芸術文化振興基金、財団法人 地域創造</p>	<p>一般 1,100 (1,000)円 ／大学・高 校生 700 (600)円／ 中学生 400 (300)円</p>	<p>26,000</p>	<p>35,721</p>
<p>コレクション展</p>	<p>3/17 -3/3</p>	<p>主催:横浜美術館</p>	<p>一般 500 (400)円 / 大学・高校 生 300 (240)円/ 中学生 100 (80)円</p>	<p>182,250</p>	<p>157,583</p>
<p>横浜美術館塾</p>	<p>5/13 -3/31</p>	<p>主催:横浜美術館</p>	<p>2,000 円～ 40,000 円</p>	<p>300</p>	<p>256</p>

子どもに対する取 り組み事業	4/1 -3/31	主催:横浜美術館	無料～ 9,000 円	23,680	32,114
市民の創作活動 支援事業	4/19 -3/31	主催:横浜美術館	1,000 円～ 38,000 円	2,552	2,421
志村信裕展「うか べ」	10/23 -11/23	主催:横浜美術館	-	-	7,570
観客誘致事業	4/1 -3/31	主催:横浜美術館	-	-	3,350
美術鑑賞会	4/1 -3/31	主催:横浜美術館	-	-	250
協賛金獲得プロ グラム「Heart to Art」	4/6 -3/31	主催:横浜美術館 共催:Heart to Art プログラム参加各企業 ・相模鉄道株式会社 ・横浜信用金庫 ・横浜ホームコレクション	-	-	-
横浜トリエンナー レへの支援事業 (アジア・アート・ ネットワーク)	9/2 -3/20	主催:横浜美術館	-	-	-